南房総市域学協働事例集 2021 産学協働地域活力創造事業 2021 I 千葉大学



実施者

≪教 員≫千葉大学 特任専門員/地域コーディネーター 阿部 厚司

≪参加者≫千葉大学 理学部生物学科 3 年 石井 和

≪協働パートナー≫

【行 政】南房総市役所 市民課市民協働グループ

【企業等】ヤマナハウス、合同会社 WOULD(シラハマ校舎)

【個 人】地域おこし協力隊 荒川 悠ほかメンバー、ヤマナハウス南房総三芳シェア里山 代表 永森 昌志、 副代表 沖 浩志、溝口 耕一、合同会社 WOULD(シラハマ校舎) 代表 多田 朋和

1. 背景と目的、実施内容

は生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、空き家や空き店舗の増 加、耕作放棄地の増加といった様々な影響が出ている。そして、 そのような影響を最小限に留めるには若者が地方創生に興味を持 ち地方に戻って地域社会に参加することが求められる。私は大学 1年生のときに授業を通して地方創生に興味を持ったが、地方創 生に興味をもった若者を増やすには、若者にとって関わりやすい ような活動を増やし気軽に地方創生に取り組むことができるよう にすることが重要ではないかと考える。また、私は専攻している 生物学の楽しさをより多くの人々に伝える方法を大学入学時から 模索していたが、そのような機会を自分の力で作り出すことは困 難であった。そして、私のように「自分の知識や思いを表現して いきたいがどうすればよいかわからない」という悩みを抱えてい る若者は少なくないのではないかと思う。以上より、興味がある ことを地域の特徴を通して伝えていくような取り組みが普及して いけば、より多くの若者に地方創生に興味を持ってもらうととも に新たなチャレンジの機会を提供できるのではないかと考えた。

そこで、私は 2017 年度より継続している「産学協働地域活力 創造事業」の一環で、その取り組みのひとつの事例として「南房 総市×生物学プロジェクト」と題した南房総市と生物学の魅力の 普及を目的とする活動を行うことにした。私が想定している取り 組みは大きく3段階に分けることができる。

- ①ある地域と自分の興味があることの共通点を探す
- ②その共通点を活かした活動の方向性を検討する
- ③その活動を実行する

今年度は第1段階である南房総市と生物学の共通点を探すこ とと第2段階の活動の方向性を決めることが主な活動内容となっ た。現地訪問は感染予防にも留意しつつ 2021 年 7 月~ 2021 年 検討するワークショップといったものが挙げられる。

12月の期間中に計8回(7/17、10/16、11/6、11/20、12/18: 現在日本は少子高齢化と人口減少に直面しており、特に地方で ヤマナハウスの月例イベント・10/24、12/11-12:ヤマナアカデ ミー・12/20-21:シラハマ校舎滞在)行った。そして、現地訪 問を通して、私は南房総市の自然が豊かであるという特徴を活か せば南房総市と生物学の魅力を伝えられるのではないかと感じ た。温暖な気候の南房総市は東京湾と太平洋に面しており内陸に は房総丘陵があることから、場所によって様々な景観の自然が存 在することが特徴である。自分自身も南房総国定公園で釣りをし たり、海老敷金比羅山へトレッキングに行ったり、キンセンカや ビワ、ハバノリといった南房総市の名産品を味わったりといった ようにその特徴を満喫させていただいた。また、私は南房総市の 自然と接することで生物学の魅力を再確認することができた。個 人的に、生物学の魅力は身近な生物や現象を様々な視点からあれ これ考えることだと思っているが、南房総市での活動は自然との 距離が近かったため普段生活しているときよりも多くの生物学に 関連した発見があり大変興味深かった。特に私にとって興味深 かった発見は、ドングリである。現地訪問先であるヤマナハウス 付近では様々な種類のドングリを見つけることができる。種類に よって大きさや硬さ、殻斗(帽子といわれる部分)の模様が異な るという形態的な魅力と、ブナ科の植物にとって分布領域を広げ る種子的な役割を担う果実であるとともにイノシシやリスといっ た森林に生息する動物の食料であるという機能的な魅力をドング リは兼ね備えている。そして、ドングリは身近な存在であるにも 関わらずそのような魅力があまり知られていない点に興味を持っ た。以上から、私は南房総市の自然を通して南房総市と生物学の 魅力を伝えることに決め、具体的な周知方法を検討した。現段階 の案としては、地元の小中学生に南房総市の豊かな自然に興味を 持ってもらうことを目的とした生物学的な観点からみたドングリ の魅力を紹介するイベントや、地域の方々と共に獣害の解決策を









ママナハウスの月例イベントの参加者の

- 方々と交流している様子
- ヤマナアカデミー「アウトドア編」の様子
- ヤマナアカデミー「狩猟編」の様子

域学協働の工夫!

- ★ヤマナハウスで開催されるイベントに定期的に参加し南房総市のことをよく知っている方々と継続して交流することで、 南房総市に関する多様な情報を得ることができ活動を進めるうえで参考になった。
- ★ヤマナハウスやシラハマ校舎といった複数の地点で活動することによって南房総市の自然の豊かさを知ることができた。
- ★地方創生に携わっている永森さんがご講演された地方創生に関する大学の講義に出席し地方創生の現状を知ることで、 自分の取り組みの目的や活動内容を見直すことができた。

2. 成果と課題

(1) 地域貢献面

ヤマナハウスの月例イベントやヤマナアカデミーへの参加を通 して、「より多くの人に自然の魅力を伝え、興味を持ってもらう」 という点では一定の成果を挙げることができたのではないかと思 われる。しかし、今年度は自然の魅力を伝えるだけで終わってし まい、自然を経由して南房総市や生物学の魅力を伝えるようなア プローチがほとんどできなかった点は課題である。今後は南房総 市ならではの自然の魅力を発信したり、生物学的な視点からみた
ナハウスやシラハマ校舎での現地訪問を通して出会った様々な分 自然の魅力を伝えたりといったような工夫が必要である。

(2) 教育・研究面

南房総市での活動は自然との距離が近かったことが印象的で あったが、それが南房総市の魅力であるとともに獣害といった問 題を引き起こしていることを学んだ。そこで、南房総市の地域問 題を自分の活動に含むことができれば、生物学や南房総市の魅力 の普及だけでなく、地域問題の解決に繋がり地方創生に貢献でき るのではないかと思われるので、今後の活動で前向きに検討して いきたい。また、今後の活動をより充実させるには自然に関する 幅広い知識をもつことが重要であると感じた。南房総市や生物学 の魅力を伝えたり地域課題の解決に貢献したりするには地域の 方々から教わったことに自分の経験や知識、考えを融合させた活 動を行うことが重要になるので、今後は自然について様々な側面 から学習していければと思う。

3. 今後の展開

前述の通り私の取り組みは大きく分けて3段階に分かれるが、 今年度で第1段階と第2段階を完了させることができた。そし て、来年度も引き続き活動させていただける場合、自然を通して 生物学と南房総市の魅力を普及することを目的とした取り組みを 実施するとともに、今回の取り組みで得たことと大学で学習した ことを獣害といった自分の専攻に関連する地域課題の解決に活か せていければと思う。そのような取り組みの際は、今年度のヤマ 野に精通している方々と積極的に交流し、取り組みの実現に向け て必要な知識、技術、考え方等を得ていくことを意識していきた い。例えば、現時点でドングリの魅力を伝えるイベントと獣害の 対策を地域の方々と共に考えるワークショップの開催を検討して いるが、前者の場合は自然の専門家の方に時間経過による南房総 市の自然の変化を伺ったり、造園の専門家の方にドングリを使っ た工作に必要な技術を教わったり、また、後者の場合は獣害の専 門家の方から獣害に関する知識を学んだり、南房総市に住んでい る方に普段の生活における獣害の被害とそれに対する対策を伺っ たり、といった形で交流していければと思う。そして、今回の私 の活動によって地方と自分の興味があることの共通点を活かして 双方の魅力を伝えるような取り組みが普及し、より多くの若者が 地方創生に興味を持つとともに地域課題の解決に貢献することを 期待している。

*表彰・マスコミ掲載など

- ・「シラハマ校舎 COC + 事業」掲載 https://www.awashirahama.com/nagao/coc/index.html
- ・「南房総三芳のシェア里山」掲載 https://yamanahouse.site/

01 02